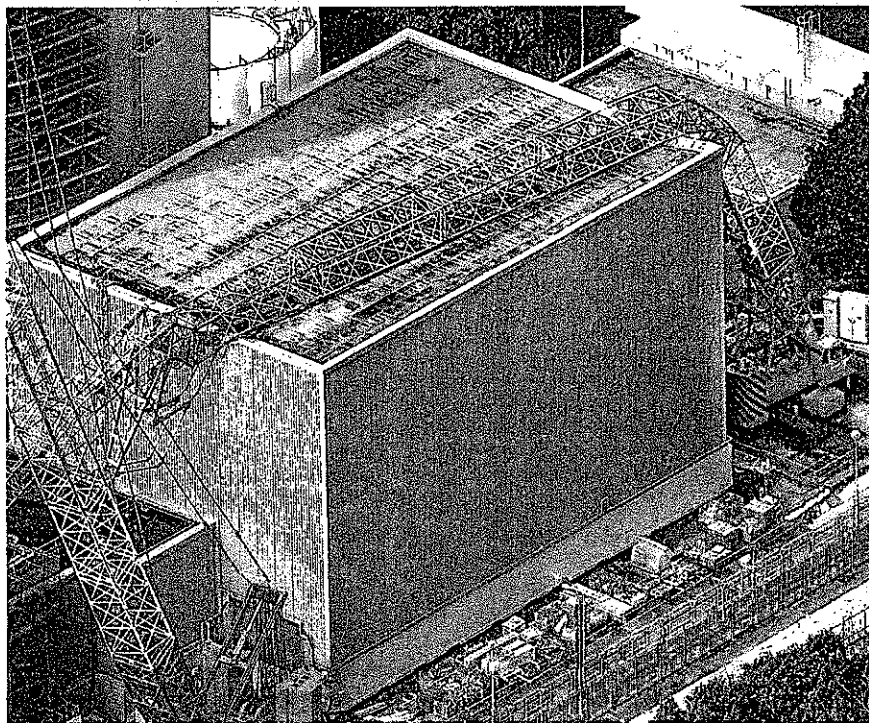


1/22
朝



倒れた高浜原発の工事用クレーンのアーム＝21日午前9時47分、福井県高浜町、本社ヘリから、豊間根功智撮影

高浜原発クレーン倒壊

強風原因か 建屋の壁変形

関西電力高浜原発（福井県高浜町）の構内で20日午後9時50分ごろ、大きな音がしたため社員が現場を点検したところ、工事用の大型クレーンのアーム（全長約113メートル）が倒れ、2号機の原子炉補助建屋と使用済み核燃料を保管する燃料取り扱い建屋に直撃しているのが見つかった。二つの建物の屋上の壁の一部が変形していた。アームは強風で倒れたとみられる。関電が21日未明に発表した。

関電によると、周辺の放射線量に影響はなく、けが人もいない。事故当時作業はしていなかったが、クレーンのアームは建屋とは反対方向の斜め上に伸びている状態だった。事故後はアームがぐにやりと曲がって建屋に倒れていた。燃料取り扱い建屋には使用済み核燃料を保管するプールがあるが、落下物はなかった。クレーンは瞬間風速42メートルの場合でも倒れない想定で、おもりで固定されていたが、防げなかった。関電は原因が究明されるまでクレーンでの作業は中断する。

運転開始から40年を超え、高浜原発1、2号機は昨年6月、原子力規制委員会から国内で初めて20年間の運転延長が認められた。現在は停止中。2020年の再稼働をめざすが「影響は見せない」としている。関電は今回、運転延長に必要な安全対策工事の一環として、原子炉格納容器の上部にドーム状のコンクリート製の屋根の設置を計画。昨年12月に大型クレーン4台を設置し、2月からの本格工事に向けて準備を進めているところだった。当時、福井県内には暴風警報が出ており、高浜原発構内での計測では風速14～15メートルを記録していたという。

原子力規制庁の検査官は21日、安全上重要な設備に影響がないことを確認。今後、クレーンを安全に撤去

できるかなどを調べる。県も職員2人を派遣し、関電から状況の説明を受けた。デジタル版に動画